

【2-15】ポスター作成の仕方

研究の成果がまとまったら、発表に向けて準備を行います。

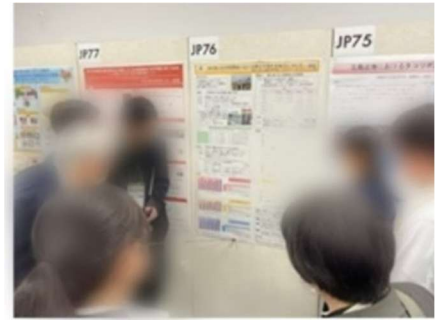
近年、研究発表の多くはポスターセッションで実施されます。

ポスターは、研究の成果を端的にまとめること。

○箇条書きや写真、グラフを中心につくりましょう。

×長い文章、文字が小さい、デザイン性が乏しいものは、

概要を伝えにくい、注目がされにくいなどの欠点があります。

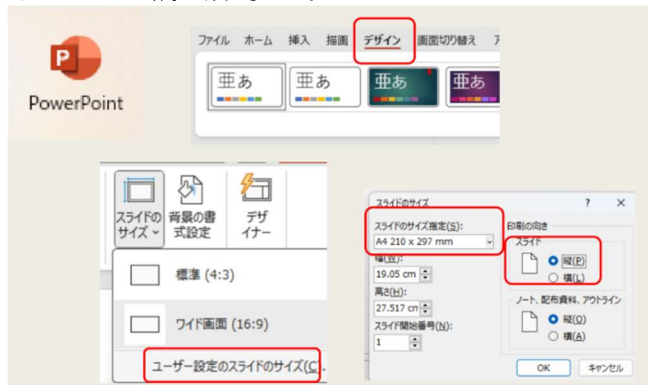


調査・実験が終わり
データが集まった

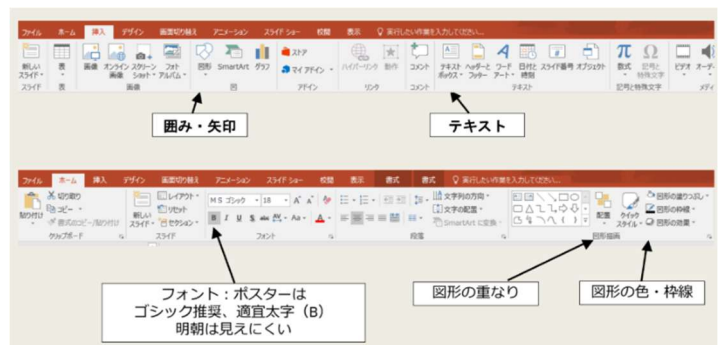
グラフの作成
Chapter I を復習する

ポスター作成
Excel→PowerPointへ
元の書式を維持して貼り付け可

○A4サイズ縦に設定する。



○ブラウザから使用頻度の高い機能を確認する。



○「逆Nの字」を意識して、次のように作成する。(色は同じ系統に統一すると読みやすい)

関心を持った事象
先行研究
リサーチエスチョン
仮説

実験であれば
○○を使って、▲▲の条件で○
日後に◆◆を計測した。

アンケート調査であれば、
○○を対象に、▲▲人に
「～～」について質問した
などと示す。

写真1のように
～～という違いが得られた。

このような結果となったのは
～～が原因と考えられる。
○○について新たに調べること
とした。(→実験2) など

スポーツX班

多摩高校Merakiのポスターレイアウトの考察

氏名 氏名 氏名 氏名

導入
「○○」は～～という現象である。
××(2000)などがわかっていることから、
「～～」という課題を明らかにすることとし、
「▲▲」と仮説を立てた。

実験1 ～～の変化
材料：○○
器具：××
条件は：
～～として
○日間□を測定した。

結果
～～
～～

考察と展望
～～
～～

実験2 ～～の測定
方法
～～
結果
～～
考察
～～
結論と展望
本研究で示されたことは以下のとおり
① ～～
② ～～
③ ～～
今後は ～～

謝辞
～～
参考文献
～～

所属がわかるように必ず入れる

注目してもらえるように、
図形を使ってデザインする

実験1から新たに分かった課題に
基づいて追実験の方法を記す

～～と～～には有意差が
得られたなど、
グラフからわかることを記す。

このような結果となったのは
～～が原因と考えられる。などと記す。

実験1、2から共通して○○ということがわかった
(帰納的推論)
先行研究に対して、○○ということが新たに分かった。
などを箇条書きで記す

他機関から協力をしていた場合に示す。

学習した正しい方法で記す。

○研究の流れは、研究班の全員が理解する。

1 導入 動機・先行研究・ 社会課題を踏まえた リサーチクエスト	2 方法 設定した条件 測定する対象 測定に用いた機器	3 結果・考察 写真、グラフの説明 有意差の説明 結果の原因	4 結論と展望など 推論、新たな発見 今後の課題 謝辞・引用文献
---	--------------------------------------	---	---

× 悪い例…担当している箇所しか説明できない。

	1 導入	2 方法	3 結・考	4 論・展
A さん	話せる!	無理!	無理!	無理!
B さん	無理!	話せる!	無理!	無理!
C さん	無理!	無理!	話せる!	無理!
D さん	無理!	無理!	無理!	話せる!



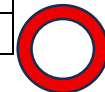
×文章で一字一句作成した文章で説明しようとする。

私たちは、〇〇について探究することにしました。〇〇は、「〜〜〜」という際に生じる現象です。先行研究では、20xx 年「〜〜〜」がわかっていて、△△という社会課題があります。そこで私たちは「〜〜〜」を明らかにすることとしました。

原稿頼みに陥りやすい

○ 良い例…各自が全体を理解した上で分担する。

	1 導入	2 方法	3 結・考	4 論・展
A さん	担当!	理解!	理解!	理解!
B さん	理解!	担当!	理解!	理解!
C さん	理解!	理解!	担当!	理解!
D さん	理解!	理解!	理解!	担当!



○キーワードを頭に入れて、相手を見ながら伝える。

- ・探究するキーワードは〇〇
- ・現象はわかりやすくいうと「〜〜」
- ・先行研究のポイントは〇〇
- ・社会課題は「〇〇」ということ
- ・リサーチクエストは「(独自性)」

相手と目を合わせる余裕や即興性が生まれる

【2-16】論理の飛躍に注意する

例えば 「交通事故が起きた」 → 飛躍 → 「原因は、雨である」
(運転士の不注意などの可能性もある)

論理的な飛躍とは、「課題設定から解決のアプローチ」、「結果から導かれる結論」などにおいて、論理的なつながりや根拠が欠けている状態のことを指します。

「課題設定から解決のアプローチ」における論理の飛躍

事例1: 昼休み、売店の売れ残りを解決したいと考えた。

そこで、「文字を大きくし、色を明るくした広告を貼って解決させることにした」

飛躍: 売れ残る原因は、「訪ねやすい時間帯」「気温」「配置場所」などが考えられる。「事前観察をしたところ、配置場所が原因だと予想し、その場所に広告を貼って解決させることにした」など、アプローチの根拠を示すことで、飛躍を解消させる。

要因は複数あるのに、どれに注目するのかを省くと、飛躍に陥る

例. 早く泳げるようになるため、筋力を鍛えた。(浮力の生かし方、手の入水などの要因もある)

「結果から導かれる結論」における論理の飛躍

事例2: 赤色のユニフォームのチームと青色のユニフォームのチームでバスケットを 10 試合行ったところ、赤色のチームが 8 勝、青色のチームが 2 勝であった。「着衣の認知」の現象が支持され、赤色の着用が有利であるといえる。

飛躍: バスケットボールの勝敗には、身長差や持久力の差、技術自体も影響するため、色だけが原因とは考えられない。対戦チームの平均身長や、走行距離、パスの成功率、などにより原因を調べるべきである。

レポートなども同様、終わりが見えると、早まる気持ちに押されて思考が雑然とし、飛躍を起こしやすいです。

原因の可能性に過ぎないものを、勢いよく断定的に述べてしまうことは、飛躍につながります